

1 情勢報告

J A土佐くろしおニラ部会の現地検討会が開催されました

現地検討会の様子
（須崎市）

（中土佐町）

J A土佐くろしお管内において10月26日、ニラの現地検討会が須崎市と中土佐町上ノ加江の2ヶ所にわけて開催されました。

会では収穫期間中の栽培管理のポイント、最近導入されている定植前マルチの特性などについての検討がなされました。

今年は特に雨が多かったことから、株腐細菌病や湿害による葉の黄化症状が発生し、養成が十分でなかった株が見られます。生産者・J A・振興センターそれぞれの意見を出し合い、養成が不十分な株は収穫を遅らせて株の充実を図ることが検討され、参加者全員の技術向上へとつながる検討会になりました。

今後とも振興センターはJ Aと協力して、生産者の技術向上を支援します。

J A土佐くろしおインゲン部会現地検討会の開催



現地検討会の様子

10月23日、中土佐町と須崎市の2カ所の篤農家圃場で現地検討会が開催されました。

現地検討会には20戸の農家が参加し、サヤインゲンのジベレリン処理やそれに続く初期管理のポイント、現在の篤農家の管理について検討が行われました。

新規耕作者からは、基本的な質疑応答もなされ、あらためて基本管理技術の確認が行えました。

次回の現地検討会は1月に予定されており、今後とも振興センターはJ Aと連携・協力して、生産者の技術向上のための支援を行っていきます。

津野山地区のユズの出荷が始まる



出荷風景

J A津野山ユズ部会の平成24年度の目慣らし会が11月9日、J A津野山「輝」で開催されました。参加者数は36名でした。

出荷は11月12日から始まり、最終の11月28日までに7回の受け込みが予定されています。本年は、植え付け5年目となるユズの収穫が始まるので、前年の10.4tを上まわる出荷量が見込まれています。

今後も振興センターは、J A馬路村との契約栽培を念頭に置き、J A津野山と協力して良いユズづくりを進めていきます。

1 情勢報告

須崎市 「人・農地プラン」 地区説明会の開催



地区説明会の様子

須崎市では「人・農地プラン」の説明会を11月13日の多ノ郷・南地区を皮切りに5地区で開催しています。

説明会では中国四国農政局高知地域センター職員から地域の人と農地の問題について考えていく必要性や「人・農地プラン」を作ると、誰に、どのようなメリットがあるのか等の説明を受け、参加者との意見交換を行いました。

今後は、中心的な担い手を誰にし、どのように農地を集積するのか等、地区単位で話し合い作成する計画であり、振興センターでは、市、JA等と連携し、「人・農地プラン」作成への支援を行っていきます。

千年杉営農組合が視察研修を行いました



地元説明の様子

梶原町の千年杉営農組合は11月12日に、米のブランド化に向けた取組の一環として愛媛県東温市の「農事組合法人アグリすのうち」へ視察に行ってきました。

視察は、組合員に関係機関を加えた9名が参加し、設立経緯や米のブランドについて研修しました。設立時に国の制度（交付金）をうまく活用し極力組織の負債を少なくしてスタートしたことや、米は収量よりも品質重視の栽培方法を心がけ、販路は組合員自らが開拓し、地元東温市を中心に販売していることが聞き取れました。

今回の研修に刺激を受け、米のブランド化を出来るところから始めようという機運が組織の組合員に生まれてきました。今後、振興センターは関係機関と連携・協力して、営農組合のブランド化のための支援を行っていきます。

梶原町住民による野生鳥獣被害対策の先進地（広島県庄原市西城町）調査を実施しました。



梶原町では平成24年度に、町内全域を対象に「住民自らが取り組む鳥獣害対策の研修」を開催しています。その一環として11月8日～9日の二日間にわたり、梶原町と条件のよく似た地域での取り組みとして広島県庄原市西城町の調査を実施し、梶原町全域から農家24名が参加しました。

研修では、住民側からは行政頼みでなく自分たちで行う対策が重要であること、行政からは効果のある補助事業にしていけるのかどのような配慮をしていくか等について、参加者の質疑も交え活発な意見交換が行われました。

振興センターでは、今後も行政、地域とともに鳥獣害対策に取り組んでいきます。